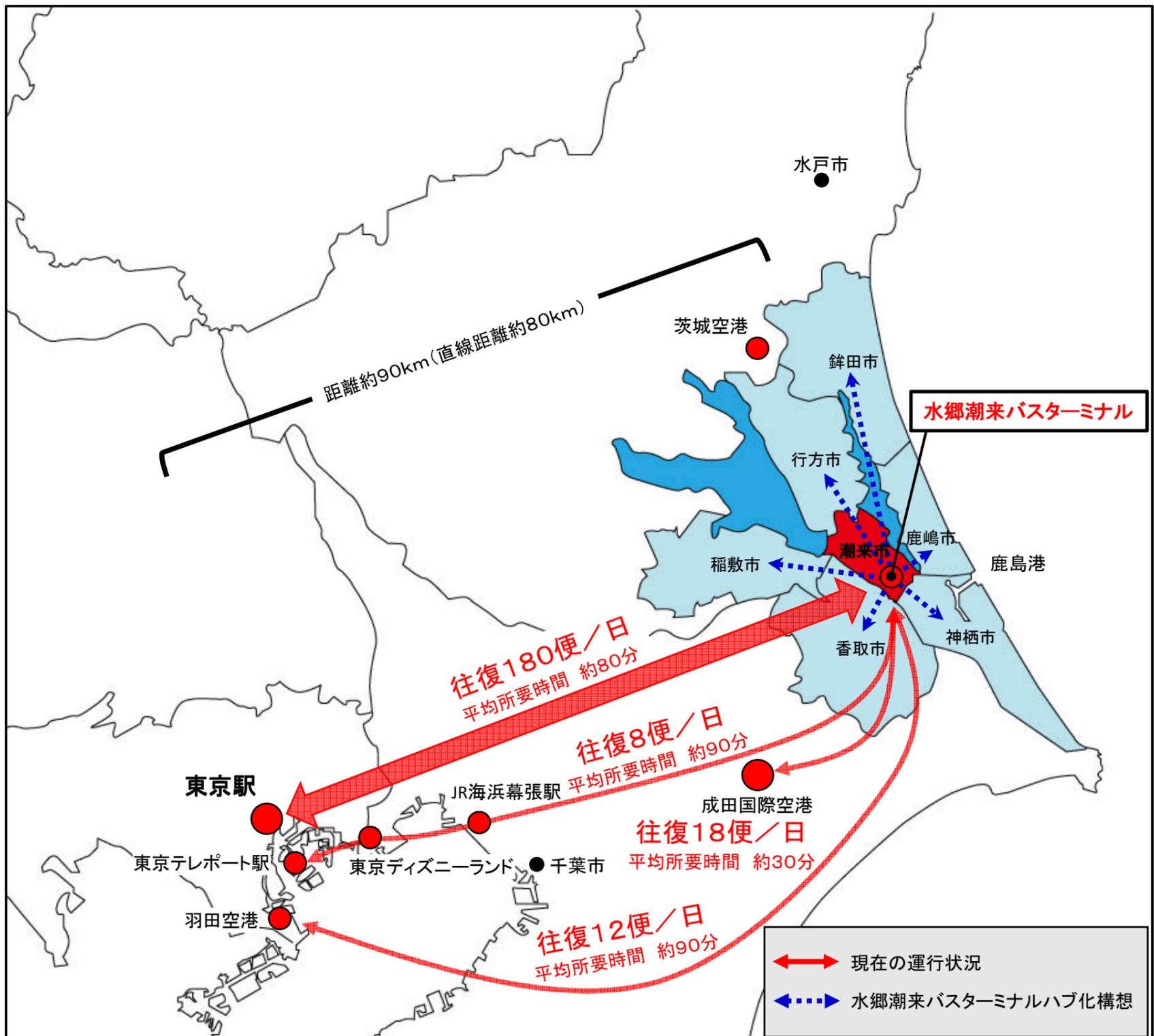


# 「水郷潮来バスターミナルハブ化構想」について



## 1. 現況

水郷潮来バスターミナルは、1日あたり東京駅間往復180便、成田国際空港往復18便、羽田空港往復12便、お台場方面(東京テレポート駅・海浜幕張駅・東京ディズニーランド)往復8便と計200便以上の高速バスが、午前5時台から深夜までの間、概ね10～15分間隔で運行する全国屈指の運行便を有するバスターミナルである。当バスターミナルは、潮来市の周辺市である鹿嶋市・神栖市・行方市・銚田市及び千葉県香取市等の住民及び企業等にとっても、首都圏とを行きかう際の地域の玄関口として多くの方々に利用されている。東京駅とのアクセス便については、利用者数が年間150万人にもものぼっている。

## 2. 水郷潮来バスターミナルの立地について

東関東自動車道水戸線の終点である潮来ICに隣接し、全国への起点である東京駅へ所要時間平均80分、世界への起点である新東京国際空港(成田)へ約30分、羽田空港へ約90分、茨城空港へ約40分でアクセス可能な利便性の高い箇所に立地している。また、比較的渋滞の少ない東関東自動車道水戸線を利用することにより、首都圏の通勤及び通学圏内となっている。

## 3. 本地域の概要について

霞ヶ浦、北浦、利根川及び鹿島灘等の自然環境を有する水郷地帯であり、「水郷潮来あやめ園」、「鹿島神宮」、「香取神宮」、「佐原の町並み」、「県立カシマサッカースタジアム」など多くの地域資源が存在している。また、鹿島臨海工業地帯(鹿島港)をはじめとした多くの企業群が立地しており、自然環境を活かした農林水産業・観光業及び東関東自動車道、鹿島港及び成田空港等の各インフラを活かした商工業等が盛んである。

## 4. 水郷潮来バスターミナルハブ化構想について

潮来市としては、水郷潮来バスターミナルが本地域と首都圏を結ぶ最も身近なアクセス拠点であるという現状を活かし、「潮来市第6次総合計画」等においても位置付けのある「公共交通の充実」を喫緊の課題として積極的に取り組んでいきたい考えである。「水郷潮来バスターミナルハブ化構想」は、本地域の主要拠点(公共施設、駅、病院、商業施設等)と、バス等の公共交通網により本バスターミナルをハブとして結ぶことにより、地域住民の利便性はもちろんのこと、地域全体の農林水産業・観光業・商工業等の振興及び発展に寄与すると考えられるため、本バスターミナル内に、本地域内各市、企業等へ向かう路線バス等が集積し、各方面行バス停から放射線状に広域交通ネットワークが構築される状況を想定している。